

第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会 やまがた雪未来 国スポ



国民スポーツ大会特集

「この町に起きた奇跡と、感動を呼び込んだ舞台裏」



2月22日から24日の3日間にわたり開催された、「やまがた雪未来 国スポ」。記録的な雪不足や気温の上昇に見舞われ、開催が危ぶまれましたが、大会コースの大幅な短縮や競技役員、町職員、スキー関係者等多くの方々から支えられ、大会を成功させることが出来ました。町内にはジャイアントスラローム競技に参加する選手団1, 500名程が47都道府県から集結。連日熱戦が繰り広げられました。

大会前はコースのコンディションに不安を抱えた状態でしたが、「開催できたことが奇跡だ」と話す関係者もいました。記憶にも記録にも刻まれた素晴らしい大会となった国民スポーツ大会について、特集でお送りいたします。

雪がない状況からのコース作りは困難を極める



記録的な雪不足により、直前まで開催が危ぶまれた国民スポーツ大会。ジャイアントスラロームが行われる競技会場への雪の搬入は、2月1日から大会直前まで行なわれました。運んだ雪の量はおよそ12,000トン。開催に向け、町の建設業部会が連日の雪の運搬を行ないました。

また、町職員や自衛隊を中心に、コース外にある雪を選手が滑るゲレンデに運び、雪付け作業などを行なうなど、高温の予報に備えコース作りを行ないました。



自衛隊員による上部コース雪付け作業。
今大会に自衛隊員約35名が競技役員として派遣。



町職員による雪付け作業。

2月中旬の高温 奇跡の降雪

2月上旬から雪付け作業を行なってきたが、大会が開催される1週間前に、気温が5月上旬並みになりました。そのため、コースの融雪が進み、大会の開催が危ぶまれました。

この状況は全国版のテレビでも放送され、国スポの準備に向けて頑張っている大会役員の姿も映し出されました。

当初は、全長1,100m程の距離を滑走する予定でしたが、半分以下の300m程までに縮小し、雪の確保と保存に注力。しかし、運び込まれた雪の中に含まれた不純物が、高温により表面に現れるなど想定外の事態も。滑走に障害が出る可能性もあり、選手からは「開催が難しいのではないかと」いった声も聞こえてきました。

しかし、2月21日の公式インスパクション（コースの下見）では待望の降雪があり、その後は、気温が低下。「奇跡の降雪」などと話す関係者もあり、また、「高温の時期に苦労された大会関係者の熱い思いが、危機的状況を回避するまでの降雪を呼び込んだのではないか」と話す方もいました。



融雪が進まないように砂と水で雪を保存。



細かい不純物の除去は移植ベラで徹底的に行なわれた。
出場選手自らが除去作業に参加する場面もあった。



雪面に浮いてくる不純物の除去作業。
集めた不純物はコース外へ。

成功の舞台裏



もがみ南部商工会
最上支部建設業部会
佐藤 友彦さん

建設業部会の佐藤さんは、国民スポーツ大会の開催を手放して喜びました。雪付け作業の開始が2月上旬にずれ込み、非常に厳しい日程での雪の運搬。そうした中、2月中旬の気温は5月上旬並みに上昇し、雪解けの進行に拍車をかけました。佐藤さんは、何としても大会を開催出来るように、近隣から持ってこれる雪を探すことに奔走。また、ゲレンデへの雪付けは経験がない作業。何度も試行錯誤を繰り返して作業に当たったそうです。

大会コースのゴールエリアから正面に見える急斜面（3番ポスト）までは、圧雪車を使って雪を上部的の方へ押し上げながらの作業。その更には、中央ゲレンデからホイールローダーで雪を

半分は挑戦、半分は使命感 全国の選手に滑ってもらうために。

運搬。このホイールローダーでの上部の雪付け作業は、急斜面を何度も行き来するため、安全確保をした状態でも、オペレーターにとっては経験のないこと。恐怖心が出てもおかしくない作業だと佐藤さんは語ります。「作業を始める前は正直言うとうと半信半疑でした。急斜面に雪を付ける作業は経験がない。それでも全国各地から来る選手のために使命感をもってやらせていただきました。」と佐藤さんは話します。

また、「今回の国スポでの雪付け作業は、町内の建設業者が一丸となり達成できた。大会が成功してくれて本当に良かったです。」と語ってくれました。建設業部会の皆さん、本当にお疲れさまでした。



大会関係者の間では、「開催出来たことが奇跡だ」と話す方が多くいました。極めて困難な状態から開催出来ることを信じて、それに関わった全ての方々が準備に励んだことが、成功につながったのだと思います。

また、本大会は暖冬で開催が危機的状況であることが全国放送で報道されました。そこに映されていたのは、大会を何としても成功させようと頑張る、大会関係者の姿です。町の建設業部会が苦勞の末に雪付け作業を行ない、関係者が選手のためにコースの不純物などを取り除き、競技役員が大会コースを仕上げた見事なパトリンレーでした。参加した全国の選手からは感謝の言葉が数多く寄せられるなど、記憶に残る大会になったのではないのでしょうか。

今年は、最上町の町制施行70周年の記念すべき年で、今回開催された国民スポーツ大会の成功を皮切りに、どんな局面であっても、奇跡を信じて励むことが、ドラマを生み成功につながるのだと考えます。出場した選手の皆様、国スポを応援してくださった皆様、支えてくださった皆様、3日間の感動と奇跡をありがとうございました。

町民一丸となれた 奇跡の3日間

最終日に起きた 素敵なドラマ

最終日のレース終了後、高校生が大会コースへ向かって深くお辞儀する姿や、感謝の言葉を述べる場面がありました。

少年男子宮城県代表として出場した芹田虎太郎選手が、全国の高校生にSNSで呼びかけ、コースに向かつて「開催してくださいありがとうございます」と集まった約50名の選手とともに、大会関係者に対し感謝の言葉を送りました。雪不足で大会運営に苦勞した関係者を労う、スポーツマンとしての素晴らしい姿でした。



高校生の中には、国スポで引退する選手もいます。彼らにとっては、何としても開催してくれたことがこのドラマを生みました。赤倉温泉スキー場で行われたこの大会が、一生の思い出になったのではないのでしょうか。



3日間の記録 選手たちが繰り広げた熱戦



少年男子で優勝した阿部和人選手（日大山形高）。急斜面での果敢さは高校生 No.1 に相応しい滑りを見せた。

県勢の躍進 地の利を活かし入賞

非常に厳しい状況だった大会コースは、2月21日の降雪により一変し、3日間順調に開催されました。中でも最終日は、大会期間の中でも一番素晴らしい仕上がりのハードバーンとなりました。

そんな中、県勢も目覚ましい活躍を見せました。雪不足の中、大会開催に向けて頑張る競技役員との熱意と声援に励み、地元選手たちも短縮されたコースの中で、地の利を活かし大活躍。成年男子Bで優勝を果たした佐藤慎太郎選手をはじめ、9名の選手が優勝や入賞を果たし、県民の期待に応えました。

県勢入賞者

〔2月22日〕	〔2月23日〕
成年男子A	成年男子C
2位 高木 柊吾	3位 叶 靖長
3位 三上 大我	
	少年女子
成年女子A	4位 山下りこほ
5位 小関 杏実	6位 遠藤 なな
成年男子B	〔2月24日〕
優勝 佐藤慎太郎	少年男子
	4位 阿部 和人
	優勝 阿部 和人
	4位 峯岸 陽

3名の町出身 選手が出場

最上町からは、成年男子B 結城智裕選手（向町）、成年女子B 赤松かおり選手（向町出身）、成年男子C 伊勢隼人選手（十日町）の3名が山形県代表として出場しました。



成年男子Bに出場した結城智裕選手。地元の大応援を受け13位と健闘。

3選手共に、惜しくも入賞することはできませんでしたが、地元の大応援を受け、滑り終えたあとは関係者に対し感謝の言葉を述べていました。